

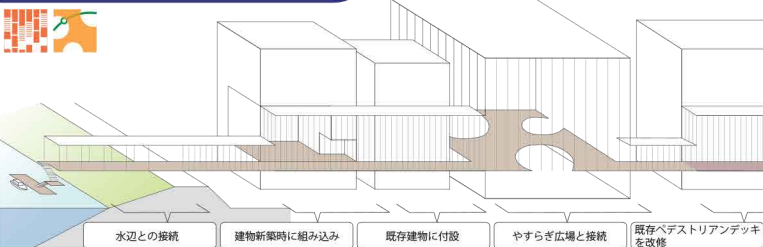
水陸の公共交通を結節／やすらぎ広場

LRT (BRT) を万代地区の中心に通すことで生まれる交通拠点。2層構成の屋内型広場となっており、1層 (地上) レベルは、バスセンターとLRT (BRT) が一体化した交通広場とし、2層レベルでやすらぎウォークと連続させる。吹き抜けを設け、1、2層を空間的につなげ、公共交通と水辺のアクティビティが交錯する場とする。



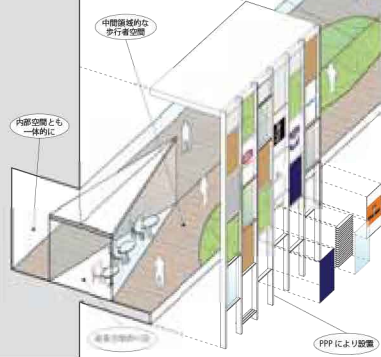
やすらぎ堤を引き込む／やすらぎウォーク

ランドアバウト型のバスターミナルの中央にLRT (BRT) の乗り場を設置し、円滑な乗り換えを促すと共に、LRT (BRT) によるダイナミックな都市演出を行う。



既存のペDESTリアンデッキを活かし、やすらぎ堤と連続する歩行者空間をつくる。新築の気候特性を配慮し、屋内と屋外の中間領域的な歩行者空間とする。やすらぎウォーク内への商業空間と広告の設置を前提としてPPP (Public Private Partnership) 事業によって推進する。

やすらぎウォークのアーケード部分はフレームに組み込まれたモジュールによって構成されており、フレームに組み込まれるモジュールは周辺環境に応じて、太陽光パネル、照明ユニット、開口、広告、ベンチなどから選択される。



分断道路を公園に／やすらぎ公園

やすらぎ堤とまちを分断する道路を公園化する。いきなり通行止めにするのは難しいが、公共交通へのシフトによる交通分担を提案しながら、社会実験、定期的な歩行者天国などを経て徐々に実現する。

